

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
1	環境の講座を支援するボランティアをしているが、活動が市の中心部で実施されることが多く、住んでいる所から1時間かかる。しゅっちゅう市の真ん中で集まるばかりで、端っこの人は、そのたびにものすごいロスがある。 近隣ではマンションが増え、新しい人、若い人が入ってくるが、余りボランティア活動をやっているようには見えない。協働だから、ボランティア団体に任せればいいというものではなく、協働しやすいようなまちづくりをしていかなければならない。	府中の地形や市役所の位置により、皆さんに集まっていたこうとすると、真ん中を希望される、あるいは設定する場合が多くなってしまう。地理的な問題については、すべての皆さんにとって平等というのはなかなか難しいが、真ん中ばかりではなく周辺の活動もよく見てほしいというご意見をいただくので、日ごろより意識するようにしている。 若い世代のボランティア活動については、年代というか、ご家庭の状況によって、活動しやすい方とそうではない方というところは承知しているが、このように協働ということを投げかけさせていただくことで身の周りの活動に目を向けていただけるようにしたいと思っている。
2	府中に引っ越してきて間もないお母さんに向けて、府中の子育てに関する情報を発信するホームページの運営や小冊子を作成しているが、ホームページの掲示板にいろいろなお母さん達が特技や活動をどんどん投稿し、活発に活動をしている。 ホームページの維持費はメンバーでお金を出し合っているが、企業との協働で小冊子を作ることになるなど、お母さん達が地域で明るく子育てしながらお金を少し稼ぐという手法があってもいいのではないかと思う。	素晴らしい活動をされていると思う。同じように小さなコミュニティビジネスを地道にやられている方は、ほかにもいらっしゃると思うので、そういう方々がつながっていくということも考えていきたい。
3	私たちの運営するサイトは子育てに特化しているので、見に来るほうもダイレクトに見に来ることができるが、そこから、もっと年代別に細かく対応していければもっと弾みがつくのではと想像している。 実際に、掲示板では、市の仕事に関する質問もあるが、身近なお母さんが答えてあげることで、かえって安心や住みやすさを与えている部分もあると思うので、このようなことが、さらに年代や問題ごとに細分化してダイレクトに対応できるようになっていくとよいと思う。	全国的には幼児や小中学生の人口が少なくなっている傾向にあるが、府中市は、他地域から移り住んで来られる方が多く、小学校の教室が足りない状態がまだ続いている。そういう子育て中の方々がいろいろ悩んだときに、市役所に行くのは少し相談しづらいけれど、ほかのママさんに少し聞いてみたいというようなことがあるのだろうと思う。

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
4	今までボランティアセンターがありながら、活動がなかなか推進しなかったのが、今回市長が協働ということを取り上げて随分進展したと思っている。しかし、行政の職員が協働ということを理解しているのかが心配な点であり、人、もの、金のうち特に金の面がくっついてこない、事業を始めたが進展しない、継続しないということが多くある。今回の基本方針はよくできているので、これが事細かに実施できれば、協働がもっと進み、場所による差異も少なくなっていくのではないかなと思う。	市民の皆さんのご理解とご協力があり、協働都市宣言をするところまでできたが、この先どう行動していくかが大事であり、プランを立てつつ市民の皆さんに広く周知をしていく、また、市の職員にも協働を受け入れる資質を求めているかなければならない。 また、活動するのになくてはならないのが財源であり、現在の補助金制度では立ち上げから3年間でしかも限度額があるので、その先の事業がなかなか続かないという例が出てくると思う。そこで次に考えていかなければならないのが、先進的な取組事例もあるファンド、基金であり、税の持ち出しではなく、寄付等でできるようになれば協働ももっと進むと思うが、形にできるのはもう少し先のことになると思う。
5	ファンドに関しては結構困難で、市の職員だけではできないこともいっぱいあると思うので、もう少し周りを固めて、ぜひ推進していただきたい。	ありがとうございます。その道のりも協働で取り組めるといいと思う。
6	中学校で防災教室があり、消防ボランティアの方々と一緒に、三角巾や煙ハウスなどを生徒に体験してもらったが、生徒の後ろには親達がいるはずで、町会などがそういった人にも働きかけて、中身のある防災訓練をどんどんやってもらいたい。	市では、今まで夏の暑い時期に1箇所で行っていた総合防災訓練を、今年から時期をずらして、浅間中、二中、五小の三会場に分け、より市民の皆さんが参加しやすい形に変えたが、やはり体験をすることで危険を再認識するということもあるし、また、中学生達に訓練を手伝ってもらうことで生徒達も多くものを吸収していたように思う。以前に自主防災組織の方々や「市長と語る会」を行ったときに、もっと学校で防災教室をやってほしい、というご意見も出ていたので、皆さんが合同で参加できるように進めていきたいと思っている。
7	(6の回答に関して) 五小では、コミュニティスクールとして総合防災訓練をやったが、各方面に参加を呼びかけても、なかなか難しいところがあったので、やはり市から、防災訓練の大切さをたくさん訴えてもらえると、学校に今携わっていない人もすごく参加しやすいのではないかなと思う。	

市長と語る会 (H26. 12. 6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
8	コミュニティスクールでは、子どもと地域と保護者で地域の危険な箇所を確かめながら地図を作る、地域安全マップという活動をしているが、安全な府中市にするために、保護者からの意見やコミュニティスクールからの意見が市のほうに届くとよいと思う。	今年度から、市内の小中学校でコミュニティスクールの取組みが始まり、学校だけではなく、地域の方々と保護者が具体的に連携して、防災訓練やゲストティーチャーなどの活動が行われている。携わっている方にはいろいろなご苦勞も多いと思うが、活動を推進するためにも、学校からの発信を地域に広げたり支援をしていきたいと思っているのでよろしくお願いいたします。
9	(8の意見に関して) 安全マップにづくりに関しては、地域がどんどん変わっていくので、4年生を主体に毎年作っている。その発表会を3年生が見て、翌年に今度は自分達で作るということで、ずっと彼らの使命として継続してくれればと思っている。	
10	放課後子ども教室事業に参加しているNPO法人だが、どうも学童クラブばかりが目立ち、放課後子ども教室の存在は隠れがちになっているが、少人数である利点を生かして勉強をみたり個人指導を行っている。しかしながら、予算が減ってしまい、先行き不安を覚えている。 また、国の施策として女性の社会進出、女性の労働力を社会に、という方向がある一方で、親が子どもにかける時間が少なくなっていると感じる。	予算の減額についてはよく確認したい。(※1) また、子育てをする上での懸念については、多くの方から寄せられるご意見であるが、国では、30代前半の女性の労働人口が大きく落ち込む、いわゆるM字カーブの解消に取り組んでおり、そうすると学童クラブも放課後子ども教室も、また保育所も足りないということになるが、作り切れていないという現状がある中で、我慢を強いられている子どもがいることも事実だと思う。そこを、子育ての協働、育み合いとして、どのように皆で育てていくかということが大事なテーマではないか。 (補注) ※1 都の補助基準単価が一部見直され、平成26年度予算は減額となりましたが、平成27年度については実施時間の拡大等を図り増額となっております。(担当：児童青少年課)

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
11	環境への取組みについて、市は、市民と利用者の三位一体でCO2を削減しようといっているが、一番やっていないのが市。新しい市庁舎が経つので、今投資するのはもったいないとのこと。だが、まず今置かれている立場で2割削減するべきであり、そうすると今度は金がないという。府中の真ん中の開発に150億の市の金をつぎこみ、新しい市庁舎に350億かかるので積み立てをしており、このために常日ごろの活動がかなり手薄になっている。協働とは、金もないのに市民を働かせてやろうとしているのかと思う。	市が行っている環境行動として、照明を全部LEDに換えるとかの投資はできていないが、今年度は小中学校の教室の照明をすべてLEDに換え、環境負荷の低減に努めている。 内容を重ねて考えられても困るのできちんと説明させていただくと、府中駅南口の再開発について、市の持ち出しとして150億から160億の予算が充当されているのは事実。ただ、再開発の都市計画は今から30数年前に決定され、20年前に伊勢丹のところが何とかでき、約10年ぐらい前に「くるる」のところができて、今工事をしているのが最後に残った地区だが、この時期を逸すると、もう組合が解散してしまうというような時期に何とか事業化にこぎつけることができた。これにより、懸案のバスターミナルの拡大、代替路線の完成によるけやき並木の保全、また地震がきて大火が出た時に全部燃えてしまわないよう防災化を図れるなど、まち全体のトータル的なプラス面を見込んで予算がつき、事業が進んでいる。 また、市役所については、現在の西庁舎が昭和30年半ばに作られたもので、6年後に新庁舎が完成するとした場合に、その時点で築60年、地震の危険性が言われる中、コンクリートの限界年度まで行ってしまう。ただ、これについては今まで積んできた基金と、将来世代の負担ということでの起債分を合わせたものを財源とするため、通常の経費の中から何かを切り詰めて市庁舎につぎ込むというものではないことをご理解いただきたい。これにしても、市民に直結する文化センターの耐震化をまず優先的にやり、次に学校を全部耐震化したうえで、いよいよ進めることになったもので、両者の時期がたまたま重なってしまったが、それぞれの判断としては間違っていなかったのではないかと思います。

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
12		現在、予算が非常に厳しいのは、支出として、後期高齢者医療制度への負担金とか、あるいは国民健康保険への一般財源からの負担、生活保護を含めて、いわゆる扶助費と言われるものが、ずっと右肩上がり、毎年5億円ぐらいずつ増えていく。一方、収入では、リーマンショックで落ちてから全然増えていない。ここで、アベノミクスで増えたもののこれがいつまで続くかわからないので、通常の経常経費を切り詰めていかざるを得ない。よりコストを削減し、無駄な事業を削っていくことを繰り返していかなければならない中で、府中の場合、公共施設が多いということがある。それは、平和島競艇場の売り上げによることが大きいですが、今はもう収益が見込めない中で、維持管理費がかかっている。そこで、公共施設マネジメントプランにそって、例えば重複したような施設についてはやめるということを近いうちに決めることになると思う。
13	これからは、子ども達の力をもっとあてにしたほうがいいのではと思う。子ども達は、大人では気づかないようなところにも気づくことができると思うので、安全マップなども子ども達に作ってもらい、学校で吸い上げ、市に上げるとか、高齢者見守りネットワーク事業なども、学校の通りで、子ども達にも担うことができるのではないかな。もちろん安全性という面で親御さんの心配もあると思うので、そこは市が入って目配りをする必要もあるが、改めて大人との接点を持ち、おもしろい気持ちなども学びながら育っていける環境を作っていければコミュニティの復活にもつながるのではないかと感じた。	安全マップはほぼすべての学校で作っているのであろうと思うが、学校の中で終わってしまっていて、地域に出ていないのかもしれない。今年度、コミュニティスクールを立ち上げ、新たなスタートを切れたということで、いただいたご意見を活用していきたいと思う。
14	子ども達の力が重要ということでは、そのように考えている企業もあって、子ども達の創造性を豊かにするために、大人と同じような仕事を体験してもらうところもある。発想の転換については、団塊や子どもも含めた各世代の人の力を借りると、新たな考え方が出ると思う。	

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
15	青年会議所主催のコンサートに行ったときに、ジャズミュージシャンの日野皓正さんが子どものことを話されていて、ジャズを楽しむだけでなく、母としてハッと考えさせられたこともあった。こういうイベントが、もっと大きく定着し、市民がもっと集えるような、5月のお祭りのようになれば、子どもともつながっていくのかなと感じた。	
16	小学生の下校時の見守りを、非常に丁寧にやってくださっている方がいらっしゃって、個々の子どもの下校をきちんと把握していて、いつも通るのに通らなかったときなどは、お母さんにちゃんと連絡してくださっているという、本当にありがたい地域連携をしてくださっている方々がたくさんいらっしゃるのに、子どものいない方などはそういうことを知らなかったりするの、もっと話題にして、皆さんに広めてあげるようなことをしていただけるとよいと思う。	去年の、小中学生の人権作文発表会の入選作品の中に、どう読んでも住吉小学校の登下校を見守っている方達への感謝の気持ちを書いたと思われる作文があったので、それをコピーして見守りの方達へあげたところ、その方達は涙をこぼされていた。子ども達も嬉しいし、そういうつながりはいいと思う。
17	視覚障がいのボランティアをしているので、障がい者にも光を当てて、一緒に協働していければよいと思う。	

市長と語る会 (H26. 12. 6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
18	点訳ボランティアをしているが、活動に参加したくても、いろいろな情報が伝わってこないということがある。 市報にしても、あれだけの情報量がありながら、視覚障がい者用に送られてくるのは選りすぐられているのか60分のカセットテープ一本。私達は、全部読みたいと思ってもわからないという実情がある。 また、ごみ出しのカレンダーは、視覚障がい者が使える点字のカレンダーがなく、再三再四作ってほしいとお願いしても作ってもらえない。 また、友人が昨年9月に仙台から引っ越してきて、市の福祉情報を知りたくて、福祉課に行き点字の資料があるかと聞いたら一切なかったという。情報を知りたくても全然入ってこない、そういうことを市長にはぜひわかっていただきたい。 また、まちづくりのほうで、建替えに際して点字ブロックの敷設やバリアフリーにすることが決まっていると思うが、完成してから「どうですか」では間に合わない場合もあるので、設計の段階から参加できる状況を作っていただきたい。 また、ホームページで、よくPDFファイルを参照するようになっているが、PDFファイルというのは、特に縦書きの文字に関しては、音声読み上げソフトで読めない。他の行政ではPDFではなくテキスト化した視覚障がい者向けのページもあると聞いているので、そういうことも知っていただきたい。 また、今日配られた概要版のパンフレットに障がい者対策の項目が一切書かれていないので、きちんと掲載してもらいたい。 また、障がい者間で情報交換をしたいのだが、個人情報等で連絡を取りたくても取れないので、市で、ネットワークづくりのアシストをしてほしい。	

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
19	(18の意見に関して) 八王子の視覚障がい者の支援をしているが、障がい者の方のほとんどはパソコンを使っており、読み取りソフトも進化していると思う。 ネットワークづくりについては、非常に難しい問題だと思う。八王子の視覚障がい者も仲間同士のつながりでやっている。会の中の情報のやり取りしかないのではないか。	
20	高齢者が増えている現在、高齢者に対する支援内容を広くわかるように広めることができれば支援がもっと進むと思う。見守りネットワーク事業の取組で認知症患者の徘徊とあるが、これに対してどのような取組みがどのように進んでいるかが見えない。	高齢者の支援について、10年後の2025年には団塊の世代の方々が後期高齢者の仲間入りをするという事で、確率的に認知症の方も増えてくると思われる。現在は11の文化センター圏域ごとに包括支援センターを設置して地域の見守りの拠点としているが、新たにきめ細かい組織を作らないと、その時代に対応できないのではないかという危機感を持っているので、これから準備を進めていきたいと思う。もちろん、後期高齢者といって一括りに考えることは適切ではなく、元気な高齢者の方もたくさんいらっしゃるので、健康寿命をどれだけ伸ばすかということも、これから大事になってくると思う。
21	協働について、インターネット上で、実際にこんなことをやっているというコーナーがあると非常にわかりやすいので、ぜひともそういうコーナーを設けてほしい。	
22	実際にいろいろな活動をしたいといった場合に、どこに行けばいいかがわからない。市民活動支援課の窓口へ行けばいいといつも言われるが、支援課にはなんとなく行きにくいものがある。もう少し行きやすい窓口をどこかに設置してもらえると、協働がもっと進むのではないか。	前回の「市長と語る会」でも、市民協働の相談窓口の設置というご意見をいただいた。再開発の話で、ビルの5、6階は、市民協働の推進を目的にした施設とするため、相談窓口ということになるが、中心部に1つあればよいかということについては、また考えなければならないと思う。

市長と語る会 (H26.12.6実施) における意見及び市長の回答

No	意 見	回 答
23	(22の意見に関して) 相談窓口については、企業等で作っているところもあるが、結構限界があると思う。インターネットの世界では、ウィキペディアという場所があって、そこではいろんなことを有識者の人が説明してくれて、皆重宝している。会社でも、それぞれのサポート窓口で間に合わないような場合には、コミュニティを立ち上げたりしている。	
24	費用が足りないという問題に対しては、市内でどのくらい企業があるかわからないが、中には、ボランティア活動をしてみたいけど、そんなにお金は払えない、少しだけなら還元したいというところもあるのではないかなと思う。ただ、各ボランティア団体が呼びかけるのは難しいと思うので、そこは市の力で担えばよいのではないかな。そうやって、企業に限らず、普段同じことを考えている個人の方とか、家族内のできごとがきっかけでボランティアに参加したいという人達も加わるようになれば、豊かな社会ができるのではないかな。	貴重なご意見を拝聴した。市としても、企業との協働については欠かすことができないものと認識している。前回の「市長と語る会」でも、例えば、小学生の社会科見学で、市内の企業を利用できないかというご意見もいただいた。ご意見のとおり、それぞれの市民グループの方がいきなり企業に行っても難しいと思うので、市がコーディネーター役として大きな役目を負っていることを改めて認識している。 また、皆様方が何となく内面で思っている大切なところを、市としてはそれば前へ一歩出ていただけるような、仕組みづくり、環境づくりをするとともに、広報も含めて皆様方に伝えていくことが大事だということも改めて思った。